

第63回日本大腸肛門病学会 発表演題

2010/11/27

肛門小窩炎について

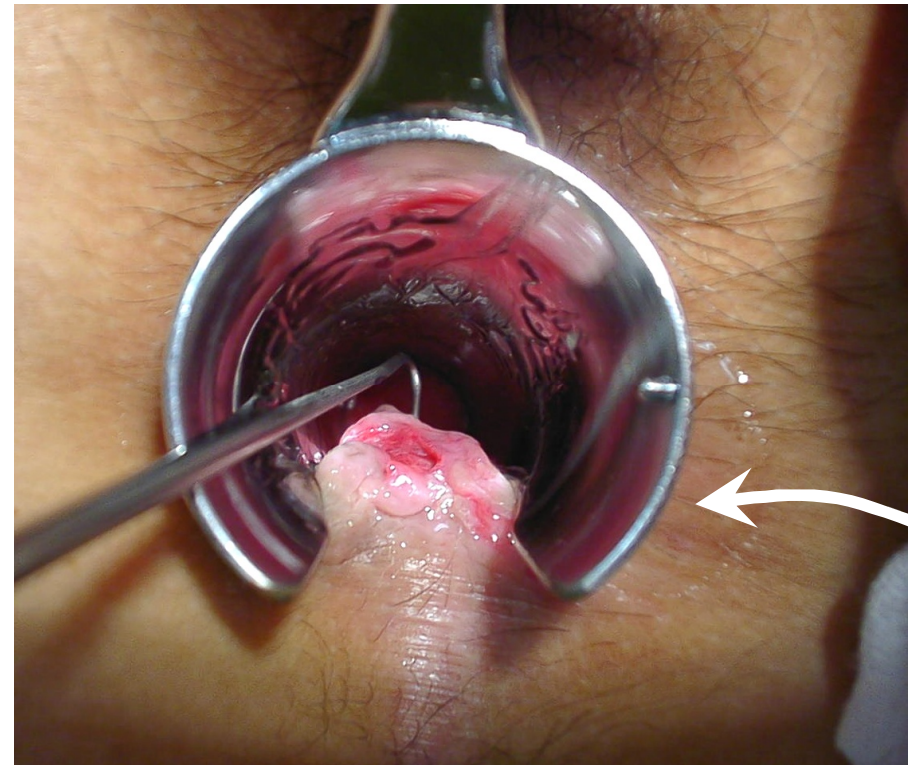
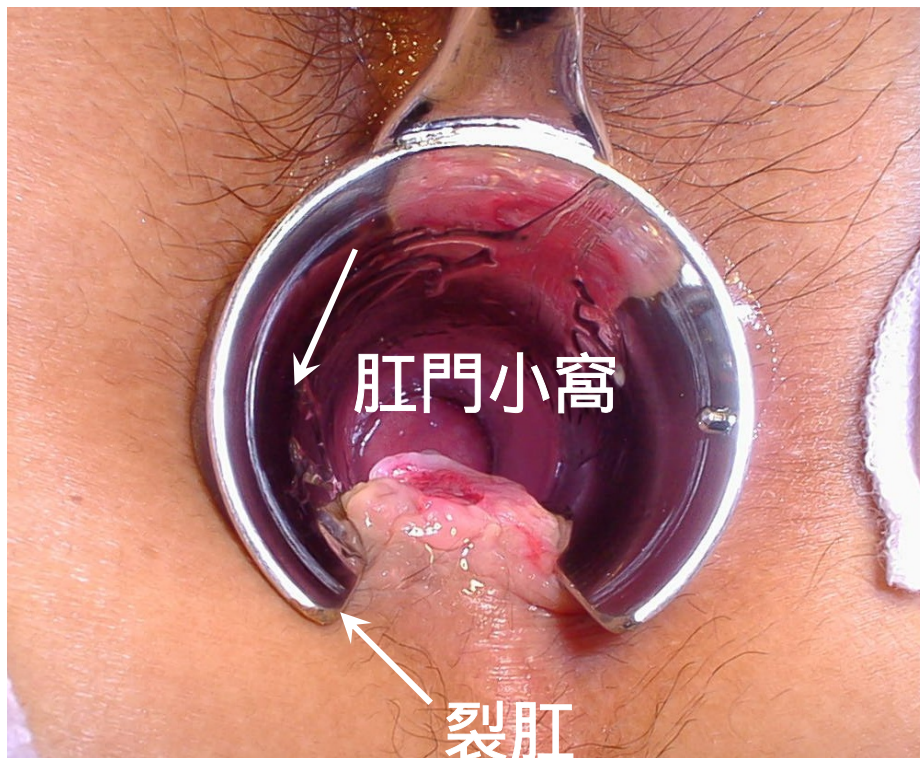
（慢性裂肛を合併した場合の治療）

増田医院

増田 和人

肛門小窩炎は高野や宮田等により発表されているが、あまり本学会でも取り上げられることは少ない
しかし、肛門小窩炎は増加傾向にあると考えられる

肛門小窩炎の診断は肛門小窩にクリプトフックを引っかけて圧痛を認めた場合とする



クリプトフックで肛門小窩を引っかけて圧痛を調べる

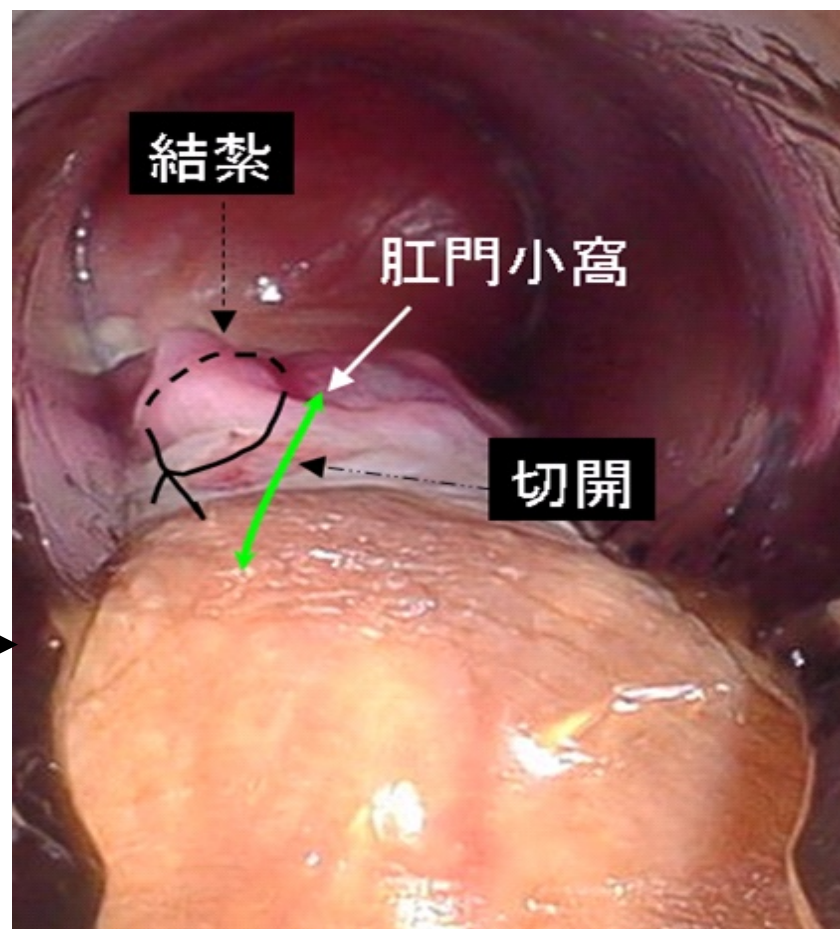
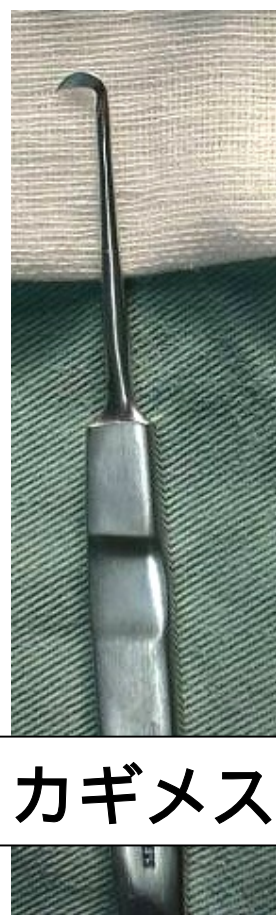
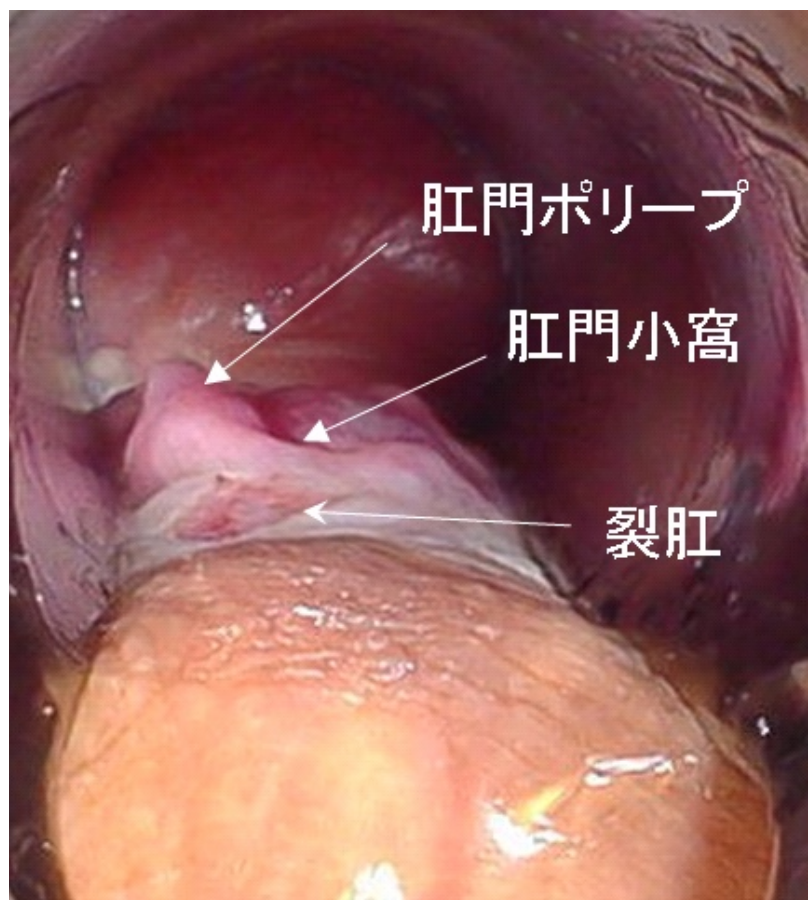
肛門痛を主訴として来院することが多く、その排便様式は軟便か、軟便と硬便を繰り返すことが多い
しかし、便秘などで下剤を多量に服用することで結果的に軟便になって肛門小窩炎を生じる場合もある

治療の主体は、軟便に対する排便管理にある
排便後の微温湯浣腸を行うことが治療の主体であるが、グリセリン浣腸を併用する場合もある

ボラザG坐薬やヘモナーゼ配合錠も同時に使用している
坐薬挿入時には肛門括約筋の緊張をとる目的で用指拡張を行うように指導している

排便管理等の保存的治療のみで肛門小窩炎の多くは軽減する

しかし、中には慢性的に痛みを訴えたり、急激に疼痛が増強したりする症例もあり、又慢性裂肛（外痔核、裂肛、肛門ポリープ）を合併していることも多い



肛門小窩切開 + 肛門ポリープ結紮

結果

昨年1年間に慢性裂肛を伴う肛門小窩炎で手術を行った症例は28例で、男性9名、女性19名、平均年齢47.9才であった

慢性裂肛を伴う肛門小窩炎に合併する疾患は痔核、裂肛、肛門ポリープ以外に、内痔核16名、痔瘻5名で、その内の4名は内痔瘻で、術後に痔瘻を合併した症例が1例あった

術後の平均治療日数は2症例が治癒を確認が出来ず、症例数26名で37.8日であった

考察

肛門小窩炎は肛門括約筋の緊張を伴っていることが多い、その理由に肛門腺炎の合併を考えている

そして、肛門括約筋の緊張が残便を誘発し、慢性裂肛への移行にもつながると考えられる

又、肛門小窩切開時に内痔瘻を合併していることが分かる場合もあり、肛門小窩切開術後に痔瘻の合併もあることから、肛門小窩炎が進行すると肛門腺炎から痔瘻形成につながる事も充分考えられる

肛門小窩切開は内肛門括約筋の一部を切開していることから、ある意味 L S I S に似た治療法と云もえる

まとめ

- 1 , 肛門小窩炎は増加傾向
- 2 , 診断はクリプトフックによる肛門小窩の圧痛
- 3 , 肛門小窩炎の治療の主体は微温湯浣腸を使った軟便に対する排便管理
- 4 , 慢性裂肛を合併した肛門小窩炎に対する手術は肛門小窩の切開
- 5 , 慢性裂肛に伴う痔核、肛門ポリープは結紮切除
- 6 , 昨年1年間の慢性裂肛を伴った肛門小窩炎の手術症例は28例、男性9名、女性18名 平均年齢47.9才
- 7 , 術後治療日数は平均で37.8日